

# 第4部

---

## 地域づくり の基本方向

### 【趣 旨】

本県内の各地域における特性や課題に応じた地域づくりを進めるため、基本的な考え方や方向性などを示すものです。

### 【構 成】

地域づくりの視点や地域区分の考え方を示す『基本的な考え方』、地域毎の目指す将来像や地域づくりの取組について記載する『地域区分毎の基本方向』、本県を代表する地域資源の一つである霞ヶ浦の将来像を描く『広域的な地域づくり』の3つの章で構成しています。

## 第1章 基本的な考え方

---

### 1 地域づくりの視点

日本社会全体が未曾有の人口減少・少子高齢時代を迎え、本県においても地域を取り囲む環境は急激に大きく変わり始めており、地域の将来はこれまでの延長線上にはありません。

本県は、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を目指し、「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」の4つの新しい茨城づくりにチャレンジし、様々な施策に取り組んでまいりますが、地域が活力を失わずに存続するためには、県民一人ひとりが地元・茨城のために、地域のために何ができるのかを考え、自ら行動することによって新しい時代を切り拓いていくことが必要不可欠です。

こうしたことを踏まえ、県は、次の3つの視点に基づき、地域づくりを進めていきます。

#### (1) 地域が主体的に考える地域づくり

地域の振興は、そのアイデアを、地域で暮らし、地域を良く知る方々が主体的に考えていくことが最も重要です。

県は、市町村はもとより、国、民間企業及び関係団体との緊密な連携を図りつつ、地域住民、ボランティア、NPOなど、多様な主体とともに将来のことを考え、今後目指すべき方向性や目標、そして危機感を共有しながら地域づくりの取組みを進めます。

#### (2) 広域交通ネットワークで相互に支え合う地域づくり

地域の創意工夫のもと、地域の特徴を活かし相互に支え合うとともに、生産性の向上に資する広域交通ネットワークの整備の在り方を検討するなど、未来を見据え、交流の盛んな地域づくりを推進します。

#### (3) 最先端技術を活用した特色ある地域づくり

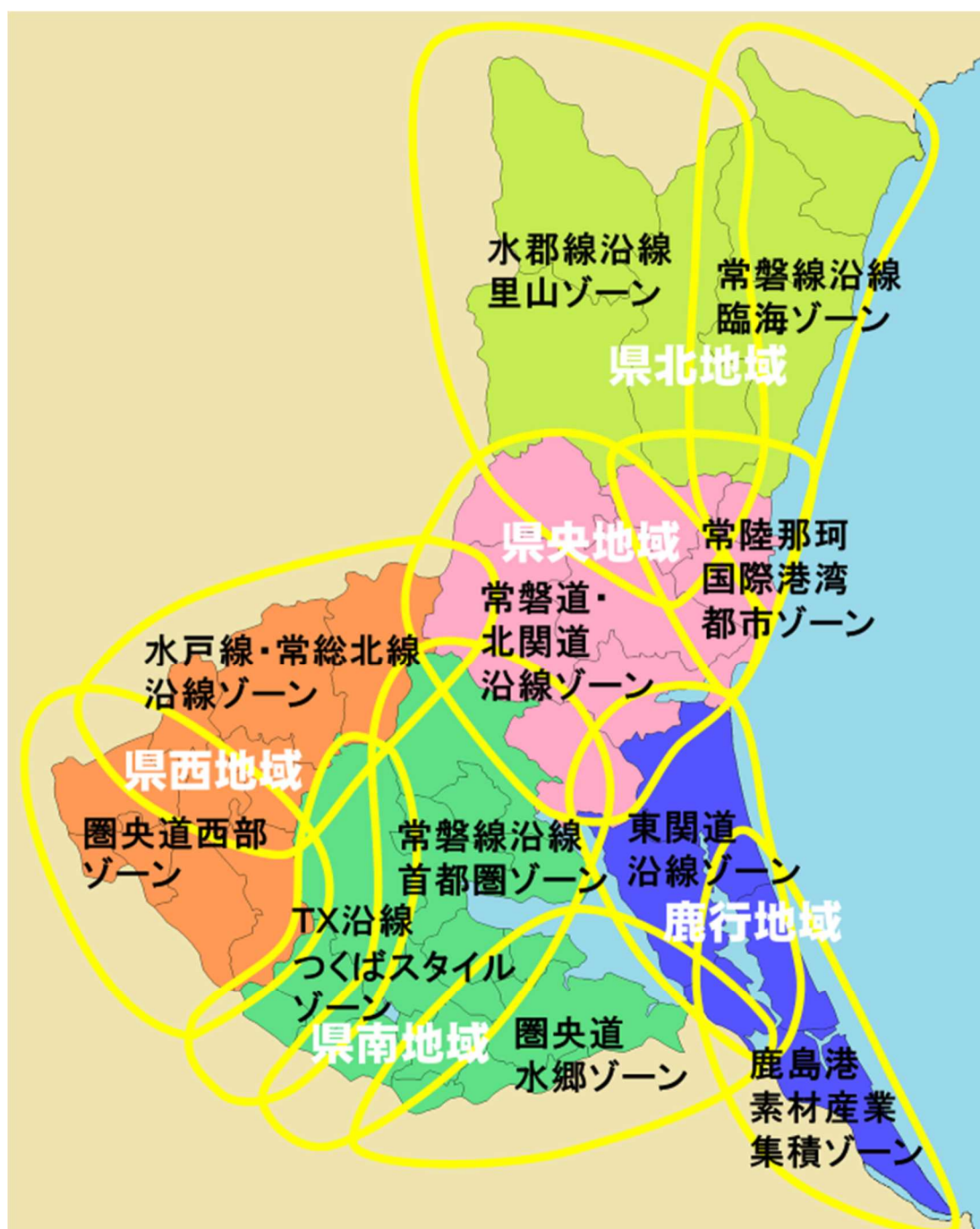
農業・産業・教育・文化・医療・福祉などの様々な分野への積極的なICTなどの最先端技術の導入によって地域の活性化を図り、将来の少子高齢化や人口減少の進行に左右されず、力強く発展する地域づくりを推進します。

## 2 地域区分の考え方

これまでの社会経済の結びつきや、地理的条件、歴史的背景などを勘案して、地域づくりを効果的に推進する観点から、県内を「県北」、「県央」、「鹿行」、「県南」、「県西」の5つの「地域」に区分します。

なお、同一地域内においても、産業構造や人口動態などから将来の発展の方向性が異なる地域が含まれることから、地域主体の地域振興をイメージしやすくするため、主要な交通インフラなどを基準に、5つの地域を細分化した11の「ゾーン」を新たに設定します。

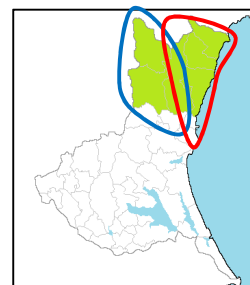
これらの境界については、地域の現状や課題を定量的に分析する場合は、市町村の行政界を基準に区分しますが、県外の地域を含め、弾力的なものとして取り扱います。



## 第2章 地域区分毎の基本方向

### 1 県北地域

面積（県全体に占める割合）	1,652 km <sup>2</sup> （27.1%）
人口（県全体に占める割合）	358,553 人（12.4%）
総生産（県全体に占める割合）	15,609 億円（12.0%）

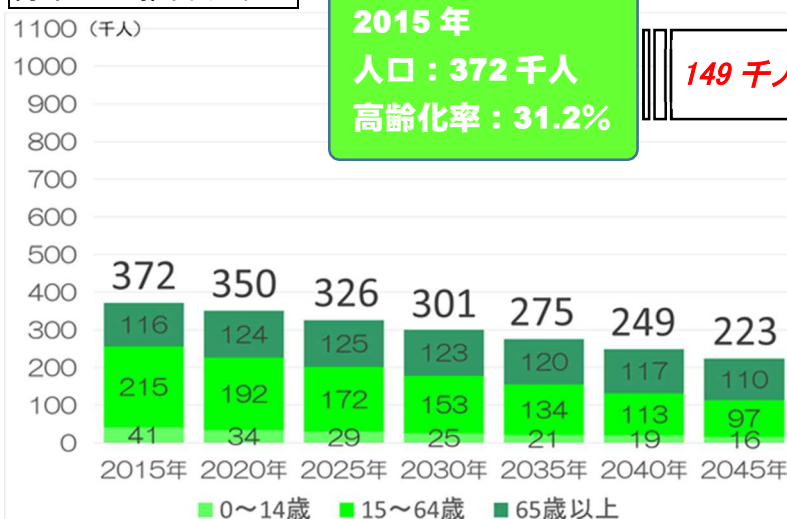


●常磐線沿線臨海ゾーン（日立市，高萩市，北茨城市）

●水郡線沿線里山ゾーン（常陸太田市，常陸大宮市，大子町）

	1人あたり所得(百万円)	農業産出額(兆円)	製造品出荷額(兆円)	商品販売額(兆円)
県北地域	2.85	0.02	1.74	0.56
常磐線沿線臨海ゾーン	2.98	0.01	1.59	0.43
水郡線沿線里山ゾーン	2.56	0.02	0.15	0.13

#### 将来人口推計グラフ



**2015年**  
人口：372千人  
高齢化率：31.2%

149千人(40.1%)減

**2045年**  
人口：223千人  
高齢化率：49.2%

#### 【現状と課題】

県北地域は、変化に富んだ海岸線や、久慈川，那珂川などの清流，八溝山系に連なる山並みの豊かな緑など，多様な自然環境を有する地域です。

人口は約35万9千人で，県全体の12.4%を占めています。県内5地域の中で最も高齢化が進行しており，将来人口の大幅な減少が見込まれています。

地域の活力を維持していくためには，広域交通ネットワークを整備し，地域の特性を活かした観光や産業の発展を図るとともに，常磐線沿線臨海ゾーンにおいては，高度なものづくり産業の振興など，水郡線沿線里山ゾーンにおいては，農林畜産業の振興による自立した中山間地域づくりなどの取り組みが必要です。

※データの出所等

面積：「平成29年全国都道府県市区町村別面積調」

人口：「茨城県常住人口調査（H30.4.1現在）」

総生産：「平成27年度市町村経済計算」

将来人口推計：「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

1人あたり所得：「平成27年度市町村経済計算」

農業産出額：「平成28年市町村別農業産出額（推計）」

製造品出荷額・商品販売額：「平成28年経済センサス」

## 【目指す将来像】

- 県北地域**は、産業・観光の発展や交流促進の基盤となる広域交通ネットワークの整備により、豊かな自然環境を活かした観光、移住・二地域居住や、地域の歴史や芸術、伝統文化を活かした多彩な交流が活発に行われ、県北地域全域がゆとりと潤いのある魅力的な地域となっています。
- ・**常磐線沿線臨海ゾーン**は、高度なものづくり産業の集積や、革新的技術の進展などにより、活力ある産業拠点が形成されています。
- ・**水郡線沿線里山ゾーン**は、農林畜産物の独自ブランドの確立、充実した生活支援サービスや安定した雇用の確保などにより、自立した中山間地域として発展しています。

## 【地域づくりの取組】

- ・広域交通ネットワークや地域の特性を活かした産業集積、専門的な人材の育成等による高度なものづくり産業の振興を図るとともに、今後成長が見込まれるクリエイティブ企業等の誘致、シェアオフィスの整備等により、多様な働き方ができる環境づくりを進めます。
- ・農業生産基盤の強化や林業経営の自立化等を推進するとともに、戦略的な情報発信等による農林水産物のブランド力強化、多様な人材の確保・育成、観光との連携などに取り組むことにより、地域特性を活かした農林水産業の振興を図ります。また、農村の多面的機能の維持・発揮を図る取組を進めるとともに、深刻化する鳥獣被害防止対策を推進することにより、農山漁村の美しい風景と豊かで住みよい環境を守ります。
- ・多様な地域資源を活かしたテーマ性の高い周遊ルートの策定や体験型観光の促進、交流施設整備の支援、F I T構想に基づく県際地域における広域的な交流圏づくりの推進等により、交流人口の拡大を図るとともに、自然、食、アート、アウトドアなどを活用し、市町が主体的に取り組むまちづくりを促進します。
- ・豊かな自然環境の魅力を活かした地域の認知度向上を図るとともに、テレワークなどITを活用した働き方支援、市町と連携した情報発信や相談対応、受け入れ環境整備等により、移住・二地域居住を推進します。
- ・地域公共交通の維持確保、地域医療提供体制の構築、日常生活を支援するためのサービス等の取組推進などにより、地域住民が安心して暮らし続けることができる生活環境づくりを進めます。
- ・中山間地域の振興、観光地へのアクセス強化などのため、広域的な幹線道路の整備を推進します。



工業都市・日立



常陸秋そば



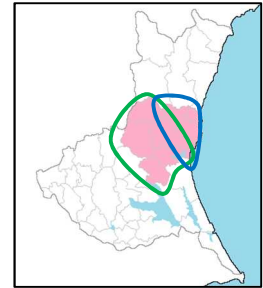
竜神大吊橋



袋田の滝

## 2 県央地域

面積（県全体に占める割合）	1,145 km <sup>2</sup> （18.8%）
人口（県全体に占める割合）	709,213 人（24.6%）
総生産（県全体に占める割合）	30,111 億円（23.2%）

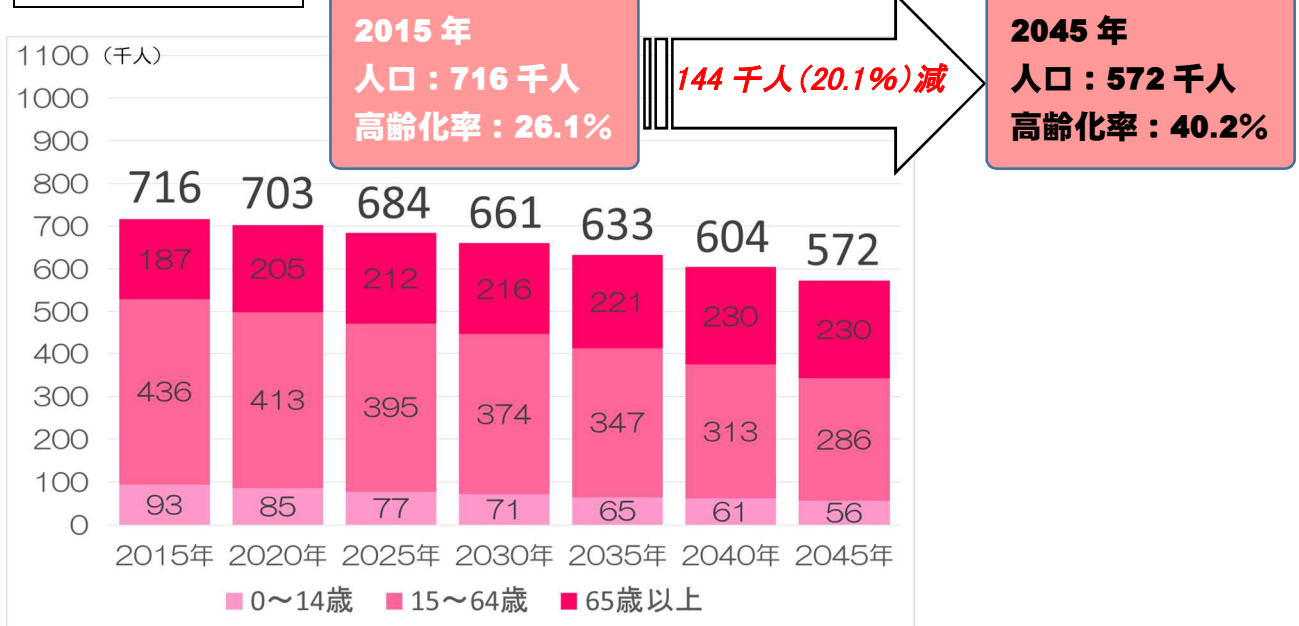


●常磐道・北関東沿線ゾーン（水戸市, 笠間市, 小美玉市, 茨城町, 大洗町, 城里町）

●常陸那珂国際港湾都市ゾーン（ひたちなか市, 那珂市, 東海村）

	1人あたり所得(百万円)	農業産出額(兆円)	製造品出荷額(兆円)	商品販売額(兆円)
県央地域	3.08	0.09	1.52	2.59
常磐道・北関東沿線ゾーン	3.07	0.08	0.57	2.10
常陸那珂国際港湾都市ゾーン	3.10	0.01	0.94	0.48

### 将来人口推計グラフ



### 【現状と課題】

県央地域は、那珂川から涸沼に至る広大な平坦地と緑豊かな丘陵地からなり、県都水戸を中心に本県の経済、文化、行政の中心地として発展してきた歴史があります。

人口は、約70万9千人で、県全体の24.6%を占めます。将来人口の減少幅は本県の他地域よりもやや緩やかなものと見込まれております。

常磐道・北関東沿線ゾーンでは、県都水戸を中心として本県のみならず北関東の発展を先導する中核的都市圏の形成が期待され、常陸那珂国際港湾都市ゾーンでは、広域交通ネットワークを活かした物流・産業拠点の形成や、魅力ある観光資源・自然環境を一体的に楽しむことができる環境づくりが求められております。

※データの出所等

面積：「平成29年全国都道府県市区町村別面積調」

人口：「茨城県常住人口調査（H30.4.1現在）」

総生産：「平成27年度市町村民経済計算」

将来人口推計：「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

1人あたり所得：「平成27年度市町村民経済計算」

農業産出額：「平成28年度市町村別農業産出額（推計）」

製造品出荷額・商品販売額：「平成28年度経済センサス」

## 【目指す将来像】

- 県央地域**は、茨城の中心として、陸・海・空の広域交通ネットワークによって国内外と結ばれ、自然、歴史、芸術、文化と産業が融合した魅力的な中核的都市圏を形成します。
- ・**常磐道・北関東沿線ゾーン**は、県都水戸を中心に、人・モノ・情報が活発に行き交い、北関東の発展を先導する中核的な都市圏が形成されるとともに、周辺地域との強い連携体制が構築された産業拠点として発展しています。
  - ・**常陸那珂国際港湾都市ゾーン**は、首都圏における国内外の玄関口としての役割を担い、物流・産業拠点が形成されるとともに、豊かな自然と魅力的な観光資源が楽しめる海浜リゾート地域として発展しています。

## 【地域づくりの取組】

- ・ J-PARC に代表される最先端科学技術やものづくりの集積を活かし、世界を視野に入れた産業や新たな時代を見据えた新産業の創出を図ります。また、茨城港常陸那珂港区・大洗港区、成田国際空港等とも結ばれる東関東自動車道水戸線の整備促進に取り組み、工業団地などへの企業誘致による産業基盤の強化を図ります。
- ・ ほしいも、栗などの特産品のブランド力強化や、6次産業化等による付加価値向上に取り組むとともに、酪農、養鶏、加工・業務用野菜、水産物など、県央地域の特色を活かした産業振興を図ります。また、農林水産業や商工業などの分野における稼ぐ力を高めるため、ICTの活用や海外展開などにより、生産性の向上や新たな市場の開拓に取り組みます。
- ・ 大洗・ひたちなか地域の豊かな自然や魅力ある観光資源等、多様な地域資源を活かした海浜リゾートとしての一体的な観光イメージづくりに取り組みます。
- ・ 北関東地域の経済・産業を支える茨城港常陸那珂港区・大洗港区や北関東自動車道、茨城空港など広域交通ネットワークにより国内外と結ばれた交通の要衝として、県土の更なる発展基盤の充実に向けた広域・国際観光ネットワークの形成を図ります。
- ・ 「茨城県央地域定住自立圏」の形成など市町村の特徴を活かした相互の連携・協力体制を推進するとともに、都市基盤の整備促進を図り、人口減少下における福祉・医療・教育などが充実した先導的なまちづくり・地域連携に取り組みます。



J-PARC



笠間の栗



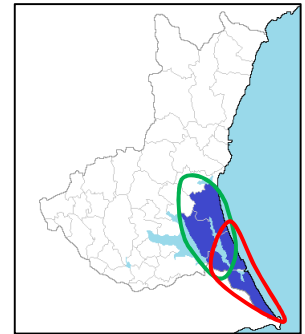
国営ひたち海浜公園のネモフィラ



偕楽園の梅

### 3 鹿行地域

面積（県全体に占める割合）	754 km <sup>2</sup> （12.4%）
人口（県全体に占める割合）	271,604 人（9.4%）
総生産（県全体に占める割合）	16,342 億円（12.6%）

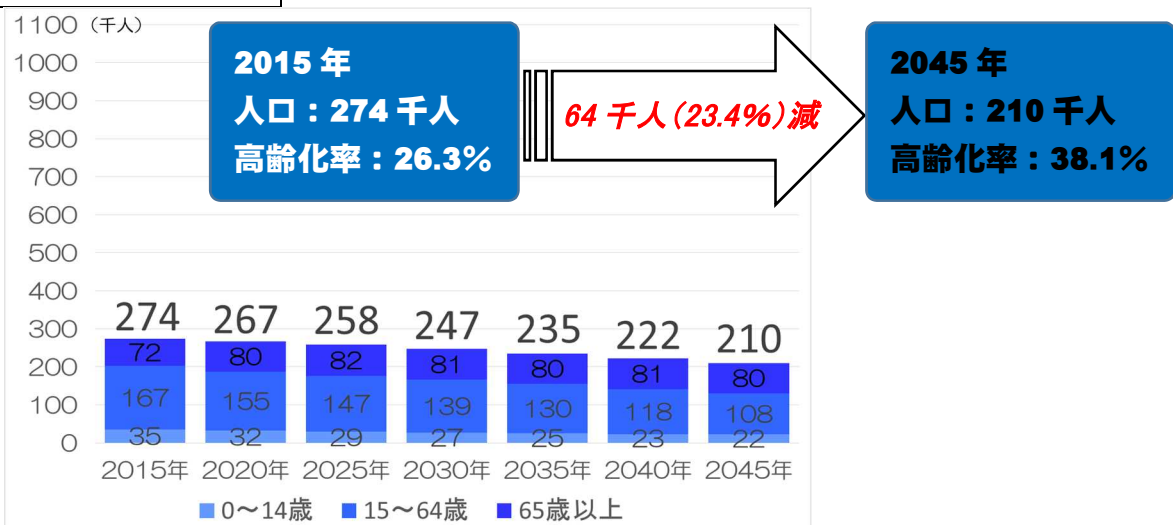


● **鹿島港素材産業集積ゾーン**（鹿嶋市，神栖市）

● **東関道沿線ゾーン**（潮来市，行方市，銚田市）

	1人あたり所得(百万円)	農業産出額(兆円)	製造品出荷額(兆円)	商品販売額(兆円)
鹿行地域	3.31	0.13	2.47	0.55
鹿島港素材産業集積ゾーン	3.66	0.02	2.32	0.40
東関道沿線ゾーン	2.81	0.11	0.15	0.16

#### 将来人口推計グラフ



#### 【現状と課題】

鹿行地域は、霞ヶ浦や北浦，肥沃な行方台地などの豊かな自然環境に恵まれ，園芸作物の栽培や養豚業，水産業などが盛んに行われる，本県を代表する生産地であるとともに，国内有数の産業集積を誇る鹿島臨海工業地帯など，農業や水産業と工業がバランスよく発展した地域です。

人口は，約27万2千人で，県全体の9.4%を占め，人口減少や高齢化率は，県全体の平均値とほぼ同程度に推移することが見込まれています。

このような中，鹿島港素材産業集積ゾーンでは，国内の素材産業拠点の競争が激しくなっていることから，立地企業と力を合わせ，国際競争力の強化，付加価値の向上，強靱性の確保に取り組み，鹿島臨海工業地帯の一層の発展と産業集積を図り，東関道沿線ゾーンでは農林水産物の安定した生産出荷体制の整備促進や6次産業化等による付加価値向上，ICT技術等を活用した生産性の向上が望まれています。

※データの出所等

面積：「平成29年全国都道府県市区町村別面積調」

人口：「茨城県常住人口調査（H30.4.1現在）」

総生産：「平成27年度市町村経済計算」

将来人口推計：「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

1人あたり所得：「平成27年度市町村経済計算」

農業産出額：「平成28年市町村別農業産出額（推計）」

製造品出荷額・商品販売額：「平成28年経済センサス」



## 【目指す将来像】

- 鹿行地域は、美しい水辺景観と魅力的な観光資源、サッカーやサイクリングなどのスポーツを活かして交流人口が拡大しています。
- ・鹿島港素材産業集積ゾーンは、鹿島港や東関東自動車道水戸線などの広域交通ネットワークの整備やつくば・東海地域と連携した研究開発などを背景に、鹿島臨海工業地帯を核として、多様な産業が集積した国際競争力のある産業拠点として発展しています。
- ・東関東沿線ゾーンは、本県を代表する生産地として数多くの農林水産物を安定的に生産出荷するとともに、6次産業化等による高付加価値化やICT技術等による生産性の向上が進展しています。

## 【地域づくりの取組】

- ・地域スポーツにおける指導者の資質向上や地域のスポーツクラブ等の活性化を図り、県民の生涯スポーツを推進するほか、サッカーをはじめとした県内のプロスポーツクラブ等と連携し、スポーツに親しむ機会を提供して地域活性化を図ります。
- ・オリンピック・パラリンピック開催を契機に、国内外の観光キャンペーンや観光サイト等において、サイクリングをはじめとする地域で楽しめるスポーツや体験型観光施設、土産品等をPRするとともに、スポーツを絡めた旅行商品の造成に取り組みます。
- ・農林水産物のブランド力強化や多様な事業者と連携した6次産業化の取組により付加価値向上を図るほか、担い手への農地の集積・集約化、ICT技術等を活用した超省力・高品質生産を実現するスマート農業を実践し、生産性の向上を図ります。
- ・鹿島臨海工業地帯が日本の経済を支える産業拠点として発展できるよう、「鹿島臨海工業地帯競争力強化プラン」に基づき、事業環境の整備や企業間連携の促進、新たな産業の集積などに取り組みます。
- ・鹿島港が産業拠点港湾として、さらなる発展をしていくため、防波堤や岸壁等の整備、取扱い貨物量の増加や定期航路の拡大、開設等を推進し、港の利用促進に取り組みます。
- ・観光地や産業集積地へのアクセス性向上を図り、広域交通ネットワークを形成するため、東関東自動車道水戸線の全線開通の整備促進に取り組むとともに、公共交通の確保や医療・保健・福祉サービスの充実など地域環境の整備に取り組みます。



カシマサッカースタジアム



銚田のメロン



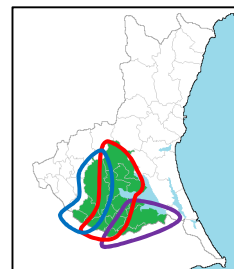
鹿島臨海工業地帯



水郷潮来あやめ園

## 4 県南地域

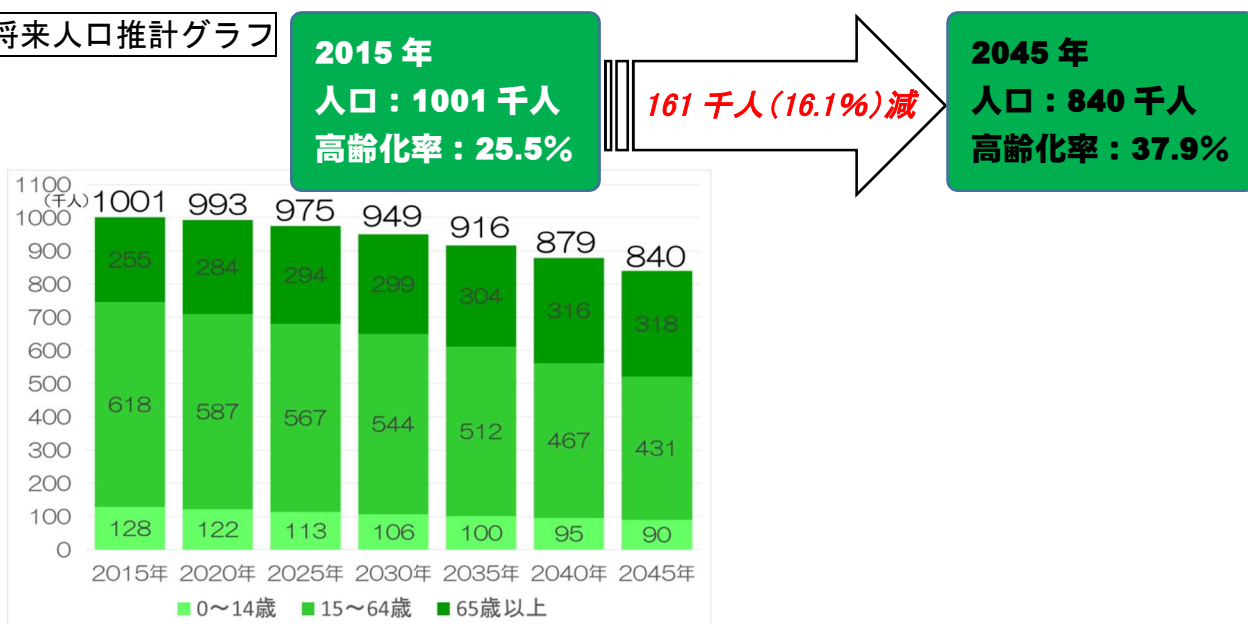
面積（県全体に占める割合）	1,514 km <sup>2</sup> (24.8%)
人口（県全体に占める割合）	1,001,362 人 (34.7%)
総生産（県全体に占める割合）	44,948 億円 (34.6%)



- 常磐道沿線首都圏ゾーン（土浦市, 石岡市, 龍ヶ崎市, 取手市, 牛久市, かすみがうら市, 阿見町）
- T×沿線つくばスタイルゾーン（つくば市, 守谷市, つくばみらい市）
- 圏央道水郷ゾーン（稲敷市, 美浦村, 河内町, 利根町）

	1人あたり所得(百万円)	農業産出額(兆円)	製造品出荷額(兆円)	商品販売額(兆円)
県南地域	3.16	0.09	3.43	2.10
常磐道沿線首都圏ゾーン	2.94	0.05	2.29	1.16
T×沿線つくばスタイルゾーン	3.66	0.01	0.93	0.85
圏央道水郷ゾーン	2.66	0.02	0.22	0.08

### 将来人口推計グラフ



### 【現状と課題】

県南地域は、本県で最も東京圏に近接する地域であり、国や企業の研究機関が多数集積する世界有数の科学技術拠点を形成する一方、筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然を有しています。

また、人口は、約100万1千人で、県内全体の34.7%を占め、将来人口の減少幅は県内の他地域よりも緩やかですが、圏央道水郷ゾーンにおいては大幅な減少が見込まれています。

常磐道沿線首都圏ゾーンにおいては、鉄道や高速道路などのネットワーク強化など、T×沿線つくばスタイルゾーンにおいては、科学技術の集積を活かした新産業の創出など、圏央道水郷ゾーンにおいては、水稻を中心とした水田農業経営の確立やアグリビジネスの振興などを図ることが期待されています。

※データの出所等

面積：「平成29年全国都道府県市区町村別面積調」

人口：「茨城県常住人口調査（H30.4.1現在）」

総生産：「平成27年度市町村経済計算」

将来人口推計：「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

1人あたり所得：「平成27年度市町村経済計算」

農業産出額：「平成28年市町村別農業産出額（推計）」

製造品出荷額・商品販売額：「平成28年経済センサス」

国立社会保障・人口問題研究所

## 【目指す将来像】

- 県南地域**は、世界有数の科学技術の集積や霞ヶ浦・利根川などの豊かな水源、縦横に走る鉄道や高速道路などの交通インフラのもと、活力ある産業と豊かな自然が共生する潤いのある都市空間を形成します。
- ・**常磐道沿線首都圏ゾーン**は、東京圏との近接性を活かし、鉄道や高速道路によるネットワークの強化を図りながら、自然と都市が調和した魅力的な生活環境を形成します。
- ・**T×沿線つくばスタイルゾーン**は、ロボットやナノテクなどを中心とした世界最先端の研究開発拠点から新事業・新産業が創出されるとともに、科学技術が日常生活に溶け込んだ快適な都市空間を形成します。
- ・**圏央道水郷ゾーン**は、安定した水田農業経営の確立や多様なアグリビジネスの発展による特色ある農業が展開されます。

## 【地域づくりの取組】

- ・大学や研究機関、民間企業と連携した最先端の研究開発や、ベンチャー企業が活動しやすい環境づくりを進め、我が国の経済成長を牽引するAIやIoT、ロボット、宇宙ビジネス分野等における新産業・新事業の創出を図るとともに、本社機能等の誘致やベンチャー企業の育成に取り組みます。
- ・水稲やレンコン、梨、柿、栗といった県南各地域の特色ある農産物を活かし、ブランド力強化や6次産業化等による付加価値向上に取り組むとともに、農業生産基盤の整備と併せて担い手への農地の集積・集約化を進め、生産性の向上を図ります。
- ・筑波山や霞ヶ浦などの自然やアーカスプロジェクト等の芸術、日本一のサイクリング環境、地域の食や文化などの優れた観光資源を活用し、国内外からの誘客を促進するとともに、世界湖沼会議やG20貿易・デジタル経済大臣会合を契機としたMICE誘致等に取り組みます。
- ・つくばエクスプレスの延伸やスマートインターチェンジ設置による高速道路の利便性向上、道路網の整備などにより広域交通ネットワークをさらに充実させるとともに、質の高い雇用や定住人口の確保を図り、地域経済の活性化を推進します。
- ・都市機能と豊かな自然、知的な環境が調和する「つくばスタイル」の実現や医療・保健・福祉サービスの充実など、安心・快適な生活を支える魅力的で住みよいまちづくりを推進します。



JAXA 筑波宇宙センター



河内の水田地帯



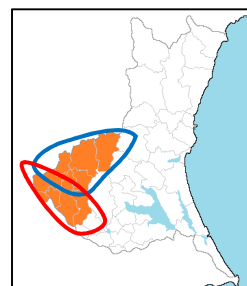
常陸國總社宮例大祭（石岡のおまつり）



つくばエクスプレス

## 5 県西地域

面積（県全体に占める割合）	1,031 km <sup>2</sup> （16.9%）
人口（県全体に占める割合）	544,893 人（18.9%）
総生産（県全体に占める割合）	22,911 億円（17.6%）

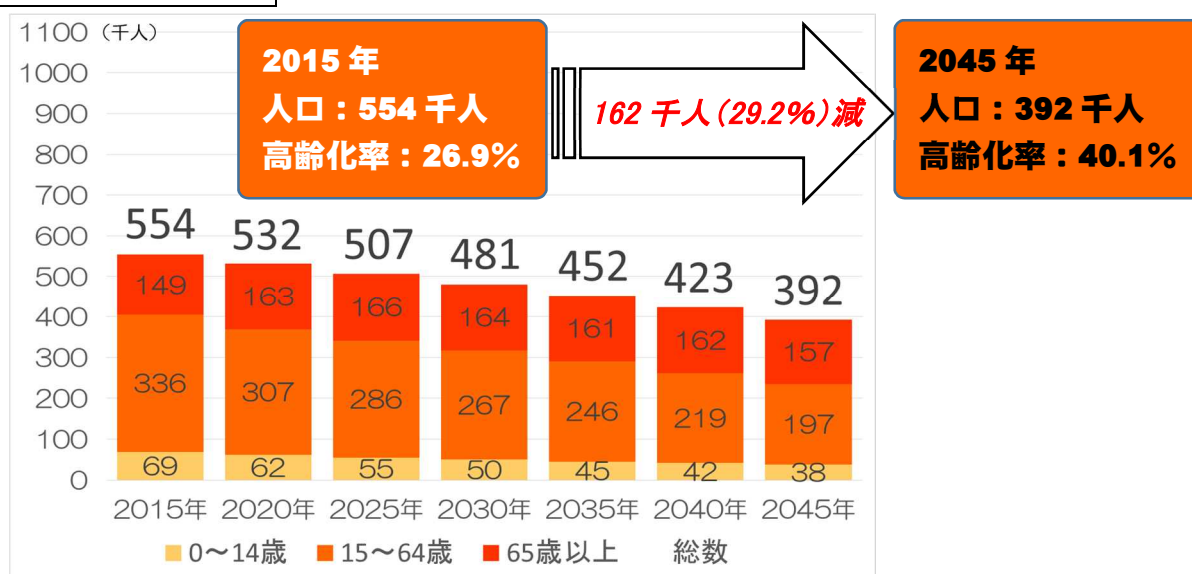


● **圏央道西部ゾーン**（古河市，常総市，坂東市，五霞町，境町）

● **水戸線・常総北線沿線ゾーン**（結城市，下妻市，筑西市，桜川市，八千代町）

	1人あたり所得(百万円)	農業産出額(兆円)	製造品出荷額(兆円)	商品販売額(兆円)
県西地域	2.96	0.14	2.87	1.07
圏央道西部ゾーン	3.02	0.06	1.74	0.55
水戸線・常総北線沿線ゾーン	2.90	0.08	1.13	0.52

### 将来人口推計グラフ



### 【現状と課題】

県西地域は、関東平野のほぼ中央に位置し、利根川、鬼怒川、小貝川の流域に広がる肥沃で広大な平坦地を有しています。伝統的工芸品や石材業などの地場産業が盛んであるほか、園芸作物を中心とした農業が展開されています。また、近年は、北関東自動車道、首都圏中央連絡自動車道など広域交通ネットワークの整備によって企業の立地が進んでいます。

人口は、約54万5千人で、県内全体の18.9%を占めます。高齢化率は県の平均と同程度で推移していますが、人口については大幅な減少が見込まれています。

圏央道西部ゾーンにおいては、東京圏に近いという地理的優位性を活かし、新たな産業拠点の形成など、水戸線・常総北線沿線ゾーンにおいては、鉄道沿線地域の良好な住環境の整備などを促進し、地域を発展させる必要があります。

※データの出所等

面積：「平成29年全国都道府県市区町村別面積調」

人口：「茨城県常住人口調査（H30.4.1現在）」

総生産：「平成27年度市町村経済計算」

将来人口推計：「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

1人あたり所得：「平成27年度市町村経済計算」

農業産出額：「平成28年市町村別農業産出額（推計）」

製造品出荷額・商品販売額：「平成28年経済センサス」

## 【目指す将来像】

- 県西地域**は、広域交通ネットワークが充実し東京圏との連携が強化されるとともに、歴史的街並みや伝統文化の中で、ゆとりと潤いのある生活・交流空間が形成されます。
- ・**圏央道西部ゾーン**は、自動車産業や流通業などの立地により地域産業が活性化した一大産業拠点を形成します。
- ・**水戸線・常総北線沿線ゾーン**は、日本を代表する大規模園芸産地と伝統的な地場産業地域とがバランスよく発展した経済圏が形成されます。

## 【地域づくりの取組】

- ・東京圏への近接性や、つくばエクスプレスや首都圏中央連絡自動車道等の充実した交通インフラ等を最大限活用することにより、インターチェンジ周辺の産業基盤整備とあわせて地域を牽引できる企業の立地を促進し、新たな産業拠点づくりを進めます。
- ・ICTの活用や生産基盤の整備、農地の集積・集約化による生産性の向上を図るとともに、畑地かんがい施設を活用した加工・業務用野菜の生産拡大に取り組みます。また、商品の差別化によるブランド化や戦略的な販売・PR活動による海外も含めた販路の拡大を図ります。
- ・伝統的工艺品や石材等の地場産業の振興を図るため、デザイナーやパイヤー等の外部人材を活用した革新的・戦略的な新商品開発や販路の開拓、人材育成に取り組みます。
- ・地下鉄8号線の県内延伸に向けて、市町の開発計画等と連携を図りながら定住人口・交流人口の拡大に取り組み、鉄道整備が必要とされる地域づくりを進めるとともに、公共交通機関の利便性向上や広域交通ネットワークの充実により、災害時も含めた東京圏との連携強化を図ります。
- ・自動車関連産業や流通業などの産業拠点と大規模園芸産地、伝統的な地場産業とがバランスよく発展した経済圏の形成を図るとともに、医療・保健・福祉サービスの充実や、歴史的街並みと伝統文化が息づくゆとりと潤いのある生活交流空間の形成を進めます。



首都圏中央連絡自動車道  
常総IC周辺地区



八千代の白菜畑



真壁の街並み



古河桃まつり

# 「霞ヶ浦の将来像」



霞ヶ浦は、古くから、地域の生活を支える水道用水や農業用水として、あるいは豊富な水産資源が獲れる漁業活動の場として重要な役割を果たしてきました。また、近年では、周辺地域だけでなく、鹿島臨海工業地域の工業用水や県西地域の農業用水、さらには首都圏の水道用水等としても利活用されるなど、広範な地域に恩恵を与えています。

一方で、流域に居住する約100万人もの人々の生活を支える湖であるが故に、人々の暮らしの豊かさと自然環境の保全という、時に相反する命題を抱えています。

美しい自然や清らかな水は、水辺に人々を惹きつけ呼び寄せます。水辺に触れ親しむ経験は、水辺の環境を保全しようという気持ちを育みます。人と湖が互いに尊重しあう地域は、そこで育つ子どもたちにその地域への誇りを育みます。それぞれの取り組みは個々に独立するものではなく、1つの環のように互いに関連しています。

これまで連綿と受け継がれてきた霞ヶ浦の自然が生み出す恵み、「生態系サービス」の維持を図りながら、これを未来へ引き継いでいくため、「霞ヶ浦とともに生きる」を目指すべき将来像として、次の基本方針のもと、その実現に取り組みます。

## 『霞ヶ浦とともに生きる』

### 基本方針1 自然豊かで安全・快適な霞ヶ浦の創造

- ① 豊かな自然環境の保全と再生
- ② 泳げる霞ヶ浦の再生
- ③ 洪水への確かな備え



帆引き船



ダイヤモンド筑波

### 基本方針2 人と霞ヶ浦の共生

- ① 湖辺景観や歴史・文化の保全と継承
- ② 霞ヶ浦の恵みを活かした活力ある産業の振興
- ③ 霞ヶ浦の恩恵の啓発と人財育成

### 基本方針3 愛され、親しまれる霞ヶ浦の創造

- ① 霞ヶ浦に親しむ機会と空間の充実
- ② 霞ヶ浦の魅力向上と発信力の強化
- ③ 交流の促進



泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル

## 基本方針1 自然豊かで安全・快適な霞ヶ浦の創造

住民・農林漁業者・行政など霞ヶ浦に関わりを持つ全ての人々の連携のもと、霞ヶ浦ならではの多様な動植物が息づく豊かな自然環境を保全・再生するとともに、「泳げる霞ヶ浦」を再生するための総合的な水質保全対策や、ソフト・ハード両面からの治水対策による洪水への確実な備えを着実に進め、自然豊かで安全・快適な霞ヶ浦の創造を目指します。



湖水浴の風景（昭和40年頃）



第17回世界湖沼会議

## 基本方針2 人と霞ヶ浦の共生

かけがえのない湖辺の景観や歴史・文化を保全・継承するとともに、自然や水質を守りながら、霞ヶ浦の恵みを活かした力強い産業を育成することにより、人びとの心の拠り所となり、活気のある地域づくりに取り組みます。併せて、霞ヶ浦の恩恵を県内外へ広く啓発するとともに、霞ヶ浦を私たちが生きていく基盤、生きる資源として考え、取り組んでいける人材を育成し、人と霞ヶ浦の共生を目指します。



漁の風景



霞ヶ浦コンシェルジュ養成講座

## 基本方針3 愛され、親しまれる霞ヶ浦の創造

子どもの頃から霞ヶ浦に接する機会と場を充実させることにより水に触れ親しむ意識を育むとともに、地域との協働のもと霞ヶ浦ならではの魅力をブランド化し内外へ発信することにより、イメージの向上と交流の促進を図り、愛され、親しまれる霞ヶ浦の創造を目指します。



つくば霞ヶ浦りんりんロード



湖上体験スクール

